

# 国際会議参加報告

米元 聡

Satoshi YONEMOTO

九州産業大学 情報科学部 情報科学科

Faculty of Information Science, Kyusyu Sangyo University  
yonemoto@is.kyusan-u.ac.jp, <http://www.is.kyusan-u.ac.jp/~yonemoto/>

## 1. 国際会議(ICIAP2013)参加報告

17th International Conference on Image Analysis and Processing(2013年9月11日～13日開催)という画像の解析・処理に関する国際会議(以下ICIAPと省略)に参加する機会があったので報告する。

会議はイタリアのナポリという観光地として世界的に有名な場所で開催された。ナポリ近郊には、古代都市ポンペイの遺跡があり、ユネスコの世界遺産に登録されている。Casteldell'Ovo(卵城)と呼ばれる歴史的建造物(城)を発表会場として利用した(図1)。このため、まともなトイレ設備がないなど不便な会場ではあったが、参加者はあまり気にしていないようであった。また、会議には、出身大学の恩師も参加されており、近況報告と若い助手の先生と話をする機会を得た。

今回の会議には、様々な国から354件の投稿があり162件が採択され(採択率45.76%)、これまでのICIAPの会議の中ではもっとも低い採択率の会議であった。また、会議の前にいくつかのワークショップも近接地で開催され、年々規模が大きくなってきているように感じる。ICIAPシリーズの会議には1999年イタリア・ヴェネツィア開催、2003年イタリア・マントヴァ開催の際にも参加したことがあり、今回で3回目の参加となった。いずれも非常に魅力的な場所で開催され会議は盛況であった。特にヴェネツィア(ベニス)は gondola 観光やサン・マルコ広場で有名で、いつも多くの観光客で賑わっている。ICIAPの会議はイタリア主催で開催されることから、中規模の国際会議であるといえる。画像関連の大規模・ハイレベルの国際会議として有名なものには、ICCV, CVPR, ECCVがある。この中では、これまでアメリカで開催されるCVPRにしか投稿・参加したことがないので今後はヨーロッパ開催のECCVへの投稿・参加を次の目標としたい。



図1 ICIAP 2013の会場 Casteldell'Ovo

## 2. 海外出張に関する経験談

通常、国際会議の参加報告では、発表論文に関する報告を行うものではあるが、本報告の性質上、海外出張に関する経験談についても述べたいと思う。

まずは、上記の会議に参加した際の旅程が、個人旅行としては通常設定しないような面白いルートとなったため紹介したい。行きは福岡→成田→ミュンヘン→ナポリと一般的な旅程での移動となった。帰りはナポリ→イスタンブール→上海→大阪(1泊)→福岡の移動となった。帰りは上海までスターアライアンス加盟のトルコ航空を利用した。以前と違いそれなりの評判の航空会社であり、乗り心地はよい方であったと思う。イスタンブールの空港はハブ空港として有名であり国際色豊かたにぎやかなところであった。また、空港には豪華で広いラウンジがあり興味深かった。上海での入国では多少警戒したが、特に日本人に厳しいことはなかった。大阪からはLCCの1つであるピーチを利用した。台風の影響や機材不備のため、かなり出発が遅れた。当日の午後講義が入っていたので気を揉んだがなんとか間に合った。LCCは便数も少ないため、出張に利用するのはリスクが高くやめた方がよさそうである。

以前は旅行を趣味としていたため、これまで個人旅行でも多くの観光地を訪問した(海のお勧めはニュー

カレドニア、山のお勧めはスイスである)。大学院のときにはじめて飛行機に乗り、はじめて海外にも行った。研究発表の旅が旅好きになったきっかけである。研究発表の旅では、指導教授の方針で特に帰りはひとり旅となることが多く鍛えられた。

記憶をたよりに列挙してみると、海外出張では、これまで 13 カ国 23 都市に渡航しているようである。ロンドンやリスボン、イラクリオンは恒例の会議が開催されるため複数回訪問しており、合計すると 30 回くらいは渡航しているようである。訪問先としてはヨーロッパが断然多い。画像関連やコンピュータグラフィックス関連の会議開催が多いことが理由の1つであるが、同様の会議数をもつアメリカは 5 都市程度の訪問回数であった。これは 9.11 テロ以降、アメリカを避けているからという事情もある。また、アジアは食事の問題や、英語が通じず、標識等が読めない地域も多く危険だからである。最近 10 年間では、毎年 7 月に開催される、International Conference Information Visualisation の会議シリーズ(本拠地がロンドンにあるのでロンドン開催が多い)に参加する機会が増えた。これは、投稿締切が 2~3 月で個人的に研究しやすい時期と重なるためと思われる。

以下、海外出張等で印象に残った旅についていくつか述べる。

#### ● 世界一周の旅

米欧2つの会議に参加するため、スターアライアンスの世界一周運賃を利用し、アメリカ、ヨーロッパと移動、つまり地球を一周したことがある。このとき、途中、アメリカでユナイテッド航空に大規模な遅延が発生し、次の訪問先ギリシャへの旅程が大幅にずれた。乗り継ぎ便が当然キャンセルとなり、アテネ空港で呼び出しがかかるまで何時間も待った記憶がある。ギリシャのクレタ島のホテルに到着したのが夜中の 1 時過ぎとなった。昔の国際会議では巨大なプロシーディングス(論文集)が何冊も配られることがあり、このとき頑丈なスーツケースがその重さで壊れたのも覚えている。

#### ● London Bomb

会議の初日に、ロンドンで地下鉄・バスの連続テロが発生した。交通手段に地下鉄を使っていたので危機一髪であった。地下鉄はすべて封鎖されたが、なんとかホテルにたどり着くことができた。外国人なので怪しまれたのはいうまでもない。何が起きたのか大体理解

できたが、ホテルのテレビをつけてその詳細が分かった。帰りは無事、予定の飛行機に乗ることができた。万一に備え、何時間も前に空港に到着し待機した記憶がある。

#### ● 飛行機乗り遅れ

イタリアのヴェネツィアからウイーン、大阪経由で帰るはずだったが、ウイーンまでのチロリアン航空遅延のため乗り継ぎに間に合わず、現地でドイツ経由の乗り継ぎを手配してもらった。実は、乗り継ぎが1時間しかなく、大学生協に作成してもらった旅程にもともと無理があったことも一因である。これ以降、乗り継ぎ時間には十分注意して旅程を作成することにした。また、国内線も成田、羽田経由に急遽変更となったため、荷物のトラブルも発生し大変な目にあった。これまで飛行機の遅延は10回以上経験したことがある。もっとも大きな遅れはエア・カナダであった。このときは目的地のホテルが自動でキャンセルになり、どこかの経由地の空港で当日の空きホテルを手配した。また近いところでは今年、スイス航空を利用してギリシャに出張に行く際も 5 時間の遅延となった。幸い乗り継ぎ国スイスで1泊の予定であったので事なきを得た。海外出張の場合は、どうしても行って帰るだけの短縮プランにならざるを得ないが、乗り継ぎの多い長旅をする場合は、経由地で宿泊するくらいの余裕が必要である。

#### ● 海外レンタカーのトラブル

タクシーかレンタカーしか利用できない交通の不便な会場のことがあり、はじめて海外でレンタカーを運転する機会に恵まれた。ホテルまであと一步のところビーチの砂浜に車が埋まり、現地の人に助けってもらった。カーナビは信じるな、が教訓である。

#### ● イベントの影響

ミュンヘン経由で出張に行った際、ちょうどオクトーバーフェスタ期間中であり、全てのホテルの値段が 3 倍近くになって困った。このときミュンヘンから遠く離れた都市に深夜に移動し 1 泊することになった。国際会議は、参加者を増やすため観光地で開催したり、大きなイベントと連動させたりすることが多くこのような状況に陥りやすい。ちなみに日本でも秋の京都はホテルの予約がとれなくて有名だが、隣の滋賀県の近隣ホテルが空いていることがある。

#### ● ストライキ発生

交通に関するストライキは何度か経験したことがある。

とくに多いのがフランスやイタリアである。ストライキに限らず、列車の遅延は頻繁に起こる国々である。列車の周遊パスを事前に購入しておけば、このような場合にも別ルートで即座に対処できるため、おすすめである。また、以下のような珍しいストライキに遭遇したことがある。ドイツのケイタリング会社のストライキのため、全日空の機内で食事やワインが制限された。この影響か分からないが、次回の個人旅行時には全日空の最高級のサービスを受けた。飛行機に関連した話としては、遅延以外に、ダブルブッキングというトラブルも経験したことがある。このときは学生であったが、ビジネスクラスに変更してもらい、逆に得をした記憶がある。

- バスの運賃肩代わり

台湾への出張の際、新幹線の下車駅である新竹駅で降りた後、会場の大学へ向かうバスを探した。バスに乗ろうとしたところ、運賃は小銭にしか受け付けないといわれ途方にくれることがあった。バスが発車直前であったため近くにいたおじさんに両替をお願いしたところ、バスにも乗らないおじさんが代わりに運賃を払ってくれた。親切な人がいるものだと驚いた。

- 東日本大震災で帰宅難民

これは国際会議の際の話ではないがあわせて紹介したい。東京のシンポジウムに参加していたが、福島で地震・津波が発生し、このとき東京も交通が完全麻痺状態となった。途中から人のよりどころとなるはずのJRや私鉄の駅も出入り禁止となり、交通手段が完全に使えない、休息できない状態となった。そのため、夜中に10km以上徒歩でホテルまで移動することとなった。やはりたよりになったのは交番であった。幸い、帰宅難民の作る巨大なフローが出来ており、ほとんど迷うことなくホテルへたどりつくことが出来た。これ以降、出張恐怖症となり、2年間ほど長期出張を控えることとなった。行く先々でテロや自然災害に出くわす確率が高い方といえる。

以上、いくつかの経験談を紹介した。幸いなことにこれまでスリや強盗被害には遭っていない。またパスポートの紛失も起きていない。パリでもっとも評判の悪い列車(RERのB線)にも乗ってみたが特に何事も起きなかった。しかし、パスポートをタクシーに忘れた学生やパリ空港で窃盗団に襲われた先生の話、レストランでクレジットカードをスキニングされた先生の話などを

直接聞いたことがある。海外に行く際には十分注意してほしい。

### 3. まとめ

以上、昨年の国際会議報告と海外出張に関する経験談について述べた。今年もギリシャのイラクリオン、フランスのパリに出張で行く機会があったが、長旅から無事に帰ってくる事ができた(手違いで同じホテルを予約するいわゆるダブルブッキングのトラブルはあったが現地で解決できた)。上記で述べたとおり、旅にトラブルはつきもので不可抗力であり、避けることができないこともあると思った方がよい。飛行機は遅延するもの、電車は定刻に到着しないものである。何か起こったときにその影響を回避する行動ができるようになること、犯罪等に巻き込まれないように対策することは各自の努力次第でなんとかなるものである。個人的に、海外渡航の際には以下の対策を心がけている。海外旅行保険に入る、ホテルを現地で手配できるよう下調べしておく、インターネット環境を整える(特に道に迷ったときのための地図機能の利用準備)、手荷物を極力減らしすべてを機内預けにする、海外の乗り継ぎ時間に3時間は見ておく(無理な場合は経由地に宿泊)、飲料水は絶えず持ち歩く。

これから海外に個人旅行をする予定の学生の皆さんには、無理のない旅行計画を立てること、事前の安全対策を行うことを強くおすすめする。